

会 議 録		令和 5 年 1 月 30 日 作成	令和 8 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府舞鶴警察署協議会（令和 4 年度第 3 回）		
開催日	令和 4 年 11 月 30 日（水曜日）		
時 間	午後 1 時 30 分から午後 3 時までの間（90 分）		
場 所	京都府舞鶴警察署 東庁舎講堂		
出席者	宮本会長、吉岡副会長、川中副会長、永野委員、山岡委員、土井委員 福本委員、船越委員 （欠席 酒井委員、伊庭委員、衣川委員） 計 8 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、 地域課長代理、刑事課長 警備課長、交通総務係長、広聴相談係長 京都府警察本部再編推進室室長補佐及び係長 計 13 人		
諮 問 事 項	1 生活安全業務の取組状況と協議事項について 2 舞鶴警察署庁舎の移転・建て替えについて		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 副署長 2 署長挨拶 3 協議 司会 会長 (1) 諮問事項説明 生活安全業務の取組状況と協議事項について～生活安全課長 【委員】 先ほどの説明の中で、防犯ボランティアの活動が刑法犯の減少に大きく貢献したという内容があった。刑法犯認知件数がピークだったという平成 14 年は私が教員として勤務していた時期だが、その頃は喫煙や万引きなど、中高生の非行が非常に激しかった。しかしながら、今の子どもたちを見ると、昔に比べ全体的におとなしいという印象を受ける。そういった子どもたちの変化も、刑法犯が減少した理由の一つではないか。 【警察】 今、刑法犯認知件数と子どもたちの変化に関して説明できる資料を持ち合わせていないが、以前、空き巣等の犯罪を犯した人物への聞き取り調査で、犯行を考えている者は住民からの挨拶や声掛けを非常に嫌うという結果が出た。これは、後ろめたい気持ちを持つ者特有の心		

会 議
内 容

理であり、つまりは地域住民による防犯活動はそれほど効果がある。刑法犯認知件数が減少したのは複数の要因が挙げられると思うが、中でも防犯ボランティア活動は非常に有効だと言える。

【委員】私が思うに、元気に挨拶をすると自分自身が気持ちいいし、気分も明るくなる。反対に背中を丸めてポケットに手を入れれば、活気がなくなり暗くなる。そういうこちら側の気持ち次第で、相手の気持ちをも変化させるような気がする。これだけのことで犯罪を抑止できるのであれば、大いに実践していきたいと思う。

【委員】被害届の件数が年々減っているのは非常に喜ばしいことだ。しかし、依然、若者の自殺が多くあることも事実である。もしかすると、それら自殺の中には表に出なかった被害も多く隠れているのではないか。未来ある子どもたちのため、私たち大人がもっと住みよい社会にしていかなければならない。

【委員】たとえ行為が直接犯罪に該当しなかったとしても、私は、いじめそのものが犯罪だと思っている。他人の人生を変えてしまうような行為、ましてや人が自ら命を絶ってしまうような行為は、犯罪と言わずして何と言うべきか。防犯ボランティア活動が子どもたちの気持ちを和ませ、この世からいじめがなくなればと願う。

【委員】刑法犯認知件数がピークだった平成14年当時、私の子どもは中学生だった。上級生の一部は毎日のように非行を繰り返して卒業を迎えたが、進学できなかったばかりか、就職先すらなかった。社会全体が荒れた結果、人生でたった2～3年の時期を失敗したことによって一生を棒に振ってしまったら、子どもたちがかわいそうである。社会全体で子どもたちを見守り、軌道修正してあげることが大切だと思う。一つの例であるが、昔、京都府内で非常に荒れていた高校が、今は生徒の活動・活躍状況が新聞でよく取り上げられている。あれは、大人が子どもと真剣に向き合って成し遂げた成果であると思う。

【委員】私は夫が2年ほど前、夜間の防犯パトロールに参加していたが、その時、「喫煙や深夜徘徊の少年はいなかった」とよく言っていた。これは、時代とともに非行の形も変わってきたのかと思う。昔とは違う方法で子どもとの関わりを持つことが必要だと思うが、学校、保護者、地域が連携をとって子どもたちを見守り、正しい方向に導いてやりたい。

【警察】現在、防犯ボランティア活動で問題の一つなのが、活動員の高齢化である。かといって、仕事や育児をしながらの参加はなかなか大変なので、例えば定年退職して間がない方などは、是非とも積極的に参加してほしい。また、先ほどの話からすれば、警察が考えるボランティ

ア運営と、市民の方が考える運営には温度差があるのではないかと思う。したがって、その辺についても忌憚のない意見を伺いたい。

【委員】「非行形態の変化」と「有効な防犯活動」についてであるが、現代の子どもたちは何をやるにしても「スマートフォン」が中心である。しかしながら、我々大人のスマートフォンの知識は子どもに比べて絶対的に劣る。そこで、警察から「犯罪被害の防止に関する講演」をもっと実施してもらえないか。一例を挙げると、ネット上には一見薬物とは全く関係のない言葉や絵文字が、違法薬物売買の隠語やアイコンとして使用されている。そして、こんなことも我々大人より子どもの方がよく知っているのが実情である。

【委員】私は「地域見守り隊」に参加し、見守り活動の際、その帽子をかぶっていると、学校帰りの子どもたちが向こうから挨拶をしてくれる。地域の大人が子どもたちを守る姿勢を見せることで、子どもたちの側も安心感を得ているのだと感じる。また、私は以前、先ほどの「府内の荒れた学校」に赴任し、その頃に京都府北部が壊滅状態となった台風災害を経験した。その際、生徒がボランティア活動に参加したところ、地域の方からとても喜んでもらった。その声を聞いた生徒たちは、他人から褒められたこと、感謝されたことが非常に嬉しかったらしく、その後も継続して積極的にボランティア活動に参加してくれた。やんちゃな子どもたちでも褒めるべきところをきちんと褒めれば、軌道修正して真っ直ぐに伸びていくのだと実感した。

【委員】子どもは元々純粹無垢な存在であり、生まれた時から悪い子はいない。そして、それを悪に導くのは大人たちである。大人が真剣に向き合い、真に子どものことを考えて行動すれば、子どもはおのずと良い方向に向かうと思う。

(2) 諮問事項説明

舞鶴警察署庁舎の移転・建て替えについて

～京都府警察本部再編推進室

【委員】私は、警察署は「役所」ではなく、あくまでも「警察」だと思う。つまり、行政手続きなどの利便性ではなく、治安に重点を置いた建て替えを行ってほしいと思う。舞鶴警察署は2庁舎に分かれた珍しい警察署だが、新庁舎が完成すれば、東庁舎を拠点として活動していた警察官の配置はなくなるだろう。そして、全ての緊急事案に対して西から急行するとなれば、今までよりも現場への到着が遅れるのではないか。

【警察】それについては既に検討を重ねている。今は具体的に説明ができる段階ではないが、北部にパトカーの拠点が必要ではないかという意見

が以前からあり、今後、更に検討する予定である。

【警察】京丹後署は3つの警察署が併合して一つになったが、パトカーと勤務員の運用方法によって広域をカバーしている。また、当署は現在でも東西を越えて走ることがあり、東方面をパトロールするパトカーも常時あり、庁舎建て替えによって現場到着時間が大きく変化することは想定していない。

【委員】現場到着時間については理解したが、そこに警察施設が存在することによって得られる治安効果もあると思う。よって、新庁舎ができて、東庁舎の場所には引き続き警察施設を置いていただくことが望ましい。

【委員】新庁舎の建設は市民にとって喜ばしいことだが、それによって体制が縮小になることは避けてほしい。例えば、東庁舎がなくなるとしても、市との連携で市役所の一部に警察機能の場所を新しくつくるとか、いろいろな可能性を含め検討してほしい。

【委員】大浦半島には東庁舎からでも50分程度かかる場所がある。西から走ればプラス15分なので、その辺も考慮して最良の方法を決定してほしい。

【警察】「庁舎建て替え」の件については皆さんの地域に持ち帰り、周囲の人に伝えてほしい。限られた予算と人員の中で意見を全て取り入れることは無理だと思うが、できる限り広く市民の要望を聞いた上で進めていきたい。

4 事務連絡

令和4年度第4回舞鶴警察署協議会は令和5年2月中に実施予定である。

以上

第3回京都府舞鶴警察署協議会の開催状況

